

「2 家にいるときに大地震が起こったら」

- 学習のねらい： 1. 自宅での危険と危険回避方法について知る。
2. 自分と家族を守るための取るべき行動を理解できる。
3. 避難場所や避難時に注意すべきことを知る。

(指導上のポイント)

- ◆生徒が危険と考えた理由についても発表させる。
 - ◆家での身を守る方法について考えさせる。
- 例) 机の下に隠れる。
風呂場の扉を開ける。

《参考》

- 危険の回避方法についても考えさせる。
- 【ガラスの破損】破損箇所から離れる、靴を履く。
- 【家具の転倒・落下】家具の近くから離れ、机の下に隠れるか、机がなければ本などで頭を守る。
- 【ドアの歪み】閉じ込められないようドアを開ける。
- 【台所での出火】揺れがおさまってから火を消す。
- その他の場所での危険と回避方法
- 【風呂場】滑ったり、破片でけがをしたりしやすいので、慌てて行動しない。
- 【家の外】家の屋根の剥落、自宅のブロック塀・石垣の崩壊・転倒などが考えられるので、慌てて外に飛び出さない。

《重要》

- 火事は津波とともに代表的な二次災害であることから、必ず注意喚起を行う。
- ハンカチのほかにタオルや服を使ってもよいことを指導する。
- また、消火は初期の火災に限定するよう指導する。

2 家にいるときに大地震が起こったら

(1) 家の中で危険なこと

家の中にいるときに地震が起こった場合、下の絵のようなことが起こりえます。あなたの家ではどのような危険があるか考えてみましょう。



照明器具の落下、割れた窓ガラスの破片の飛散、壁の部材の剥離、収納物の落下、冷蔵庫やタンスの転倒、ガス台からの出火、風呂の扉が開かなくなる、家具の横滑り、階段からの転落など

(次年度以降の展開例)

- ・ 自宅での安全対策について、生徒にまとめさせる。
 - ・ 指定されている避難所まで歩かせる。
 - ・ 地震体験車などの体験型防災学習の際に、確認させる。
- などが考えられる。

関連学習：ワークシート①

「自分や家族の過ごす部屋を安全にする」

(2) 自分と家族を守るために

①あなたの家では、どのような地震対策をしていますか。

住宅の耐震化、出口を複数確保、ガラス飛散フィルム貼り、壁と本棚をベルト固定、家族で防災会議を開く、非常用持ち出し品の準備 など

②大地震が発生すると、家の中では、次のような状況になることが考えられます。家族を守るために、あなたはどのような行動を取るべきでしょうか。

| 家の中の状況 | 取るべき行動 |
|--------------------------------------|---|
| 割れた食器の破片を踏んで、母が足を負傷している。 | 例) 消毒や止血などの応急処置をする。スリッパや靴を履き、けがをしないようにする。食器の破片を移動させる。 |
| 2階の子ども部屋から、泣いている妹の音が聞こえる。 | 妹に声をかけ安心させ、手を引き安全な場所へ連れて行く。 |
| 真夜中に地震が発生し、家中が真っ暗で何も見えない。停電で電気が使えない。 | 懐中電灯でスリッパを確認し、家族の安否確認をする。引き安全な場所へ連れて行く。 |
| 津波避難を呼びかける放送とサイレンの音が聞こえる。 | 家族に避難を呼びかけ、非常用持ち出し品をもち、家族と避難場所に行く。 |

※上記以外にどのような状況が考えられますか、また、その時に取るべき行動についても考えてみましょう。

③あなたの家からは、どこに避難すればよいでしょうか。また、避難するときに気をつけることは何でしょうか。

〇〇中学校
家族でけがをしている人がいれば、自分が重い荷物をもつ。

(3) 非常用持ち出し品について

あなたの家にはどんな非常用持ち出し品がどれくらいありますか。

| 非常用持ち出し品 | あなたの家にある量 | 保管場所 |
|----------|-----------|------|
| 水 | 2ℓ×6本 | 玄関 |
| 缶詰 | 10缶 | 寝室 |
| タオル | 10枚 | |
| 下着 | 10枚 | |
| ヘルメット | 1個 | |

- ◆非常用持ち出し品について、普段から準備することの大切さ、家族で話しあっておくことの必要性を指導する。
- ◆それらが何日分あるのか、家の中のどこにあるかを聞いてみる。

被災直後の生活を支えるためには、1人あたり1週間程度の食糧や水が必要であることを指導する。

なお、水は1人あたり3ℓ/日が目安です。

- ◆一度に持つことができる重さや量も考える（季節や天候にも左右される）とともに、家族が負傷するなどした場合は、できる範囲内で家族の分も持って行くことも考えるよう注意喚起する。

関連学習：ワークシート②

「備蓄品の種類と量、場所を確認する」

(指導上のポイント)

- ◆地震対策でもっとも身近にできるのが家具類の転倒防止なので家庭で協力して安全・安心な生活を確保するよう指導する。
- ◆住宅の耐震補強をすれば、まちの耐震性が向上することにつながることを指導する。また、行政が支援する耐震診断や耐震補強制度を紹介する。

(指導上のポイント)

- ◆地震がおさまったら家族同士で無事を確認することを指導する。
- ◆災害から自分の命を守るだけでなく、家族の命も守ることが重要であることを理解させる。

(指導上のポイント)

- ◆家族の中に高齢者や小さな子どもがいる場合に気を配るように指導する。
- ◆各地域の避難場所を家庭や市町防災担当部署などで確認するよう指導する。また、地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なっている場合があることも指導する。

※参照：県防災対策部 HP

「避難所・防災マップ」

http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000

- ◆避難に都合の良い天候・時間だけでなく、例えば雨の日の夜中に避難する場合はどうするかを考えさせる。

(回答例)

雨の日なら、レインコートを着る。
夜間・停電時なら、懐中電灯を持つ。

(確認)

地震が起こったときの危険とその回避方法とともに、事前の防災対策や想定を行っておくことが大事であると理解できたか。